

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472700580	事業の開始年月日	平成18年2月1日
		指定年月日	令和6年1月31日
法人名	有限会社そふいあ		
事業所名	グループホーム宮川		
所在地	(238-0231) 神奈川県三浦市宮川町17-19		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和4年8月13日	評価結果 市町村受理日	令和4年11月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「GH宮川」での基本原則</p> <p>①介護スタッフは、利用者に対して、たえず家族同様に接する。 （単なる福祉施設型の介護ではダメ。）</p> <p>②介護スタッフは、利用者の生い立ち・考え方・嗜好・日々の想いや変化に耳を傾ける。</p> <p>③介護スタッフは、利用者一人一人の生活・リハビリ目標を日々、把握し行動する。</p> <p>④介護スタッフは、可能なかぎり利用者と一緒に外出（散歩・買物等）するよう行動する。</p> <p>⑤介護スタッフは、可能なかぎり利用者と一緒に家事労働（調理補助・整理補助等）するよう行動する。</p> <p>⑥介護スタッフは、プロとしての介護技術（メンタル部分もあわせて）を日々、研鑽する。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年9月13日	評価機関 評価決定日	令和4年11月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京浜急行「三崎口」駅から京急バスに乗り約10分の「栄町」バス停で下車、10分ほど歩いた高台にあります。夏はスイカ、冬は大根の栽培をしている広大な畑が広がる三浦市の台地に位置しています。周囲には農家が点在し、古くからの寺もある、三浦市でも歴史のある古い地区に立地しています。

<優れている点>

「食べることが一番の楽しみ」という考えのもと、食事は「メニュー先にありき」ではなく、肉、魚、野菜とバランスよく食材を購入しておき、その日にある食材で、介護職員がメニューを考えて朝昼晩の三食を自ら調理しています。おやつも職員が手作りをすることもあります。

静かな環境の中にある1ユニット定員9名のコンパクトな事業所で、介護職員の目が行き届いています。職員の年齢層も幅広く、60代、70代のベテラン職員も多数就業しています。職員は、介護・子育てなど、個々の家庭の事情に配慮されたシフトで勤務することができています。

<工夫点>

型通りの接遇ではなく、職員が利用者と家族同様に接するアットホームな雰囲気づくりに留意しています。利用者同士が口論となった場合も、すぐに介入することなく見守り、利用者のストレスをためない工夫をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム宮川
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者の立場に寄り添う介護を理念として運営しているが、OJTや職員会議等で具体的かつ現場に即した対応を実践しながら作り上げている。	「職員は利用者に対して家族同様に接する」という理念のもと、6項目の基本原則を掲げて職員間で共有、実践しています。利用者同士の言い争いが始まった場合などにもすぐには介入せず、様子を見て対応し、利用者がストレスをため込まないように工夫をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の高齢者に声かけや野菜・煮物の差し入れ等行っている。地域の祭り等にもコロナ前はよく参加していた。	事業所は三浦市でも古くから交流がある地域により、近隣の高齢者に食材を提供するなど、地域とのつきあいが盛んです。コロナ禍以前は、地域の祭りや和太鼓のイベントなどにも積極的に参加をしていました。「隣組」と呼ばれる町内会に加入しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で認知症の知識や経験に基づく心や言動等の動きの話等の具体的な説明をしたりと事業所の理解を深めてもらうよう努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日常の事をお伝えする事でご家族に安心していただき、地域の方々にも認知症の高齢者を受け入れる事業者がある事で安心していただけるように取り組んでいる。	家族、地域住民代表が参加し、隔月日曜日の午前中に開催しています。利用者の様子や事業所の運営状況、感染症対策はもとより地域の話題などに関する情報交換もしています。年に一回、行政職員も参加しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	年1回の運営推進会議への参加等で色々なご意見やそれ以外での情報発信。コロナに関しても足りない備品配布等での積極的にご協力いただいている。	行政職員とは文書でのやり取りではなく直接出向いて話をし、顔の見える関係を築いています。行政機関の指導により、利用者の歯ブラシ、コップなどが互いに触れ合わないよう仕切りのある箱に収納するといった対応も実行しています。生活保護費受給者も受け入れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	事業所が開所してから一度も身体拘束を行っていない。また、年に数回は研修等を開き具体的な事例等を活用しながら身体拘束をしない事業所として継続していけるよう取り組んでいる。	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成しています。3ヶ月に1回以上、運営推進会議内にて「身体拘束等に関する適正化のための対策を検討する委員会」を開催し、その議事録を職員会議で報告し周知徹底を図っています。職員の研修会も実施しています。玄関は夜間以外は無施錠で職員が見守りをしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年1回の高齢者虐待点検を実施。また、研修にて高齢者虐待の内容・連絡先等の対応について職員に説明している。また、身体拘束にならない為には高齢者虐待を防ぐことが大切であると思いい、両方の内容含めて研修している。	身体拘束についての研修会内で高齢者虐待防止法に関する学習をしています。虐待と思われる事案が発生した場合は、職員から事業所の管理者へ報告し、記録に残す業務フローとなっています。その後、再発防止のための対策を実施しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	金銭面で困難な利用者もいるが、家族のサポートが困難な方等については司法書士含め、専門知識がある方に相談した上で対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前に見学や契約書の十分な説明等に時間をかけて対応している。入所後に質問等があればその都度、管理者が対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時・電話での近況報告時に意見を聞くようにしている。職員会議等で話し合いの上、出来る事柄については対応しており、困難な場合はその都度、説明しご理解いただいている。	面会や運営推進会議、電話で近況報告をする際に、家族の要望や意見を訊いています。家族向けの知らせである「宮川家族たより」では利用者の生活の様子についても報告をしています。利用者からは日々の生活の中で要望を汲み取るように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を2カ月に1回開催し、職員のいけんを聞いた上で運営に反映させる。それ以外にも日常の業務内にて立ち話程度でも意見を聞くように努めている。	管理者自らも介護業務に従事しているため、日常業務を通じて職員の意見や提案を聞くことのできる環境となっています。隔月開催の職員会議では、様々な意見、要望を共有し、可能なものは取り入れるようにしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社労士を利用しながら、現状の環境が適切か判断している。職場環境や条件等については必要な場合は可能な限り迅速に対応している。	給与、労働時間、有給制度、やりがい等、社会保険労務士の意見を参考に、職員が働きやすい就業環境づくりに努めています。職員の家庭の事情に配慮した勤務時間や日数となるようにしています。	業務の効率化のために日々のバイタル表、排泄記録、介護記録等にICTを活用できることが期待されます。
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJTを基本としている。勤務時にその場で声をかけ実践してもらう事で身につく仕事の覚え方を心掛けている。それ以外に研修にて専門的な知識や具体例にて分かりやすい説明を行っている。	「日常業務の点検」、「非常災害について」、「急変時・看取りについて」などの研修を隔月に開催する職員会議で行っています。日々の業務の中で行うOJTを重視し、職員同士が知識を深く学べる職場環境づくりに留意しています。普通救命講習会などの外部研修にも参加しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者が地元で長く生活しているため、同業者等の知り合いも多く、意見交換等を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時にご本人の出来る事・苦手な事・望む事を会話の中で探すようにしている。慣れたころにも会話しながらご本人の本意やご家族の思いを探し、汲み取るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所後にご家族が安心していただけるように常に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時は諦めもあり、多く望まれないことも多くある。会話だけでなくその方の隠れた思いも出来る限り含めたサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の場という事を第1に必要なないサービスの提供は控え、ご本人と共に暮らすという考えで業務を行うようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族・職員それぞれに担う役割を考えて共にご本人を支え合う仲間として関係を深めている。具体的には頻回な状況報告や面会時の会話等で信頼関係も構築している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	物だけでなく人・場所とも簡単に縁を切ることが無いようお手伝いしている。手紙での交流や面会・電話でのお話等を行っている。	コロナ禍以前は、家族や友人と外出をする利用者もいました。現在は、手紙や電話の取り次ぎなどで関係性が失われないように支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	他人ではなく共同生活の仲間として日々交流できるようにしている。食事を可能な限り一緒に食べてもらうようにして孤立が無いよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後もご家族が雑巾等の必要品の差し入れやメール等での近況の報告・ご家族の介護に関するご相談等、無理のない範囲での交流を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で思いや意向を把握している。発語が困難な方は日常の生活内での反応を含め、職員間で情報を共有する事で把握に努めている。	入居者の想いを理解するために、生活上の反応や食事量、動き方を注意深く見守り、判断するようにしています。特に体調に応じて一人ひとりに配慮した言葉かけをしています。気持ちが表出され「手伝って」などの要望には実現可能な限り応えるように心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の情報だけでなく、入所後の会話の中、ご家族からの聞き取りを行う中で今までのご本人の生活歴含めて把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家事の手伝いや日常生活の中でご本人の得手不得手を把握し、出来る事ややりたい事を勧めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職種間・ご家族・ご本人と関わる人の意見や思いを含めたケアプランが出来るように努めている。	入居時から様子や変化に配慮したケア計画を作成し、職員の理解を深めています。介護日誌や介護記録で現状の把握をしています。会議では家族から電話などの報告や連絡時の聞き取った内容も含めて検討し、プランを作成しています。7項目に分けた具体的方針も出しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護日誌の記録だけでなく、申し送りや日常の会話等を職員会議で出し合いながらケアを実際に合わせられるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員の長所（庭の手入れ・歯科衛生士の資格・服飾に強い）を集めて、既存の介護の枠ではなく、日常生活として考えることで結果、面白いサービスを生み出せるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議等で地域資源の把握に努め、事業所として利用できるサービスがないのか定期的に検討している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科医の月2回往診と週1回の訪問看護を基本とし、往診・通院による物忘れ外来の利用等の利用者が必要とする医療を提供している。	ホーム協力医の元、入居前の主治医の対応が必要な場合は変更せず継続しています。精神科などへの受診は職員が付き添います。内科は月2回、週1回の訪問看護で、24時間連絡の医療連携を取っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常生活の気になる点を訪問看護時に報告し、意見や指示をいただいている。医療的処置が必要な場合は医師とも連携し服薬調整や検査等を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は初期の準備については原則、事業所側が行っている。また、入院先の病院には入院時に治療が終わり次第事業所が受け入れる旨を伝え、病院が負担にならないようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの考え方や事業所の方針をしっかりと説明し受け入れていただくようにしている。往診医や看護師と検査結果を踏まえ、今後の経過や予測出来る状態を把握した上でご本人・ご家族にその都度、説明している。	看取りの方針を文書化し、契約時に説明しています。看取りの時期が来ると同意書を交わし手順に添いきめ細かい対応をしています。看取り体制について研修を実施し、都度内容検討する、運営推進会議で意見聴取することを決め、見直しを明文化しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	QJTや職員会議・研修等で様々なケースの対応方法・一般的な対処方法を職員間で共有するようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年1回は研修にて災害時の事業所・周辺状況話し合い、どのケースではどのように対処するかを話し合っている。	今年はキッチンの火災を想定した避難訓練を消防署と連携して実施しました。入居者の事業所内誘導を第一としています。水、食料、防寒シートなどを備蓄し、ローリングストック（日常生活で備蓄し、常に新しいものに入れ替える）法で備蓄しています。町内会とは防災協力についての話し合いもしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	敬語だけの固い苦しい対応ではなく、尊重をしながら砕けすぎない言葉を選びながら、尚且つ職員の個性と利用者 に合った接し方をOJT・職員会議等で話し合っ て実践している。	運営規定で「安心と尊厳のある生活」の支援を掲げ、「運営の考え方」で生い立ち・考え方・嗜好・思いに耳を傾けると示し、一人ひとりを大切にすることを目標にしています。言葉遣い、プライバシー配慮を話し合っ て介護に繋げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話の中で希望を聴いたり、過去に行っ た事を話しながら出来る事・やりたい事を探すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常々、「職員にとって良い事で、利用者にとって良い事をする。」と職員に伝えている。あくまでも、利用者が主体であることを忘れないで行動するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	職員が見立てたり、ご本人が望んだりした髪型や洋服を楽しんでもらうようにはしている。勿論、褒めることも忘れずに。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の会話の中で、食べたいものを聴いたり、実際に提供する時は誰の希望なのか説明している。また、行事食も大切にして行事ごとに食事を提供している。	食材を八百屋などの配達で調達しています。主菜、副菜、野菜2品の食事3食を職員が手作りしています。7種類の飲み物を用意し、おやつやメニューの希望を取り入れています。ガラスや食器の色などの配慮や、行事食を充実するなど食欲をそそる多量の工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	年齢・状態に合わせた食事を提供している。低栄養であれば処方にて高カロリー飲料を出したり、水分摂取も選択できるように常時7種類以上の飲料を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月1回の訪問歯科を利用してもらい歯科医・歯科衛生士からの助言を受けて声かけや介助を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄間隔や排泄の状態を把握しご本人の今の状態に出来るだけ適したおむつの使用等をしている。	排泄はチェック表で把握し声掛け誘導を行っています。肌状況を考慮し、オムツかぶれをしないようにビニール素材を使用していないオムツや、一人ひとり状況に応じた厚さのパットを使用しています。便秘には薬を用いるだけでなく、トイレの姿勢も留意し、排泄後にはお湯で洗浄し、綿タオルを使用するなど細やかな支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事は野菜を多め、水分も十分にとってもらおう。また、薬の調整だけでなく排泄時の姿勢や腹圧のかけ方や運動等でも便秘を改善するようにしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	原則、週2回の入浴としているがご本人の希望があれば、毎日のシャワー浴や清拭等を行っている。	脱衣所を広く取り、車いすの対応が可能となっています。浴室には手摺や腰掛框（浴槽内への移動ができるもの）で安全に入浴できる配慮をしています。入浴は週2回とし、シャワー浴でも対応しています。身体洗いは肌に配慮して綿製品の使用や、入浴後に保湿剤塗布しています。入浴剤で香りや色を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は茶の間でみんなで過ごし、必要であれば散歩や運動・家事の手伝い等で入床時にスムーズに睡眠がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	管理者が医師と相談の上、ご本人に必要な薬飲み処方してもらうようにしている。変更・注意点等がある場合は、記録し職員に周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	性格等も含めてご本人達が楽しんだり、自分が必要だと思ってもらえるよう考えて家事の手伝いやレクを提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	歩行できる利用者は天気の良い日に声かけ散歩を行う。車いす等も利用しても散歩を行っている。桜の時期は下りずにドライブのみで楽しんでもらうようにしている。	玄関がスロープとなっており、車いすも楽に出入りが可能となっています。皆一緒に散歩することを心がけています。夏場は、暑いからとの入居者の希望で室内で過ごすことが多くなっています。今後は「花の国」に皆でドライブに出かける予定を立てています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍となり、ご本人が支払いをする場面が極端に減ったが、以前はバザーでの買い物等を行っていた。今後、出来る場面があれば再開したいと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望する利用者は年賀状のやり取りをサポートしていた。今後も出来る利用者に関してはサポートしていく。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中、過ごす時間の多い茶の間は特に換気や空気清浄・掃除等を行っている。それ以外も1日1回は清掃を行っている。	エレベーターを完備し、1、2階ともに中央が廊下配置となり、移動に便利な構造となっています。16畳の明るい居間兼台所はソファと食卓2つを設置し、会話やテレビに加え百人一首、オセロなど、活動の場となっています。時計やカレンダーも掛かり、制作物で季節を感じるように工夫しています。朝掃除と夜床消毒で清潔を保持しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食席・ソファ・椅子等ご本人の状態も含めて過ごせる場所づくりをしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に自宅で使用していたものを居室における範囲で持ってきてもらっている。また、飾り等が好きな方は茶の間に飾らせてもらい、共用スペースの改善の一部に利用させてもらい、会話のきっかけ等にもなっている。	廊下の両側の各居室は周囲の緑が見える窓とベランダ付きで明るく開放的です。壁に物を貼ったり、馴染みの物、趣味の物を持ち込んでいます。居室担当が衣類を整理しています。毎日掃除をし、入居者のいない時間に床消毒も実施しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	家事を利用者ごとに出来る事を把握しながら、割り振って行ってもらっている。利用者が事業所にとって必要な個人であるように心掛けている。		

2022年度

事業所名 グループホーム宮川

作成日：2022年11月14日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	ICT活用せずに業務効率が低い状況にある。早期にICT導入を検討して業務効率化に取り組む必要がある。	ICTを利用した介護記録等の簡略化・情報共有システムの構築を行いGH宮川の運営に反映させる。	年度内にインターネットを導入。次年度にタブレットによる介護記録の入力等の業務省力化を進め、情報共有がしやすい運営に取り組む。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月